

## パネルデータ「老研－ミシガン大－東大 全国高齢者パネル調査」 を用いた研究に関して

東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座は、パネルデータ「老研－ミシガン大－東大 全国高齢者パネル調査」を用いた二次解析を行っております。

### 【研究課題】

高齢者状態像の経時的変化の分類および関連要因の検討

### 【研究機関名及び研究責任者・統括者氏名】

研究機関 東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座

研究責任者 東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座特任助教 一原直昭  
担当業務 研究計画・解析

### 【共同研究機関】

研究機関 慶應義塾大学経済学部・大学院経済学研究科

研究責任者 慶應義塾大学経済学部・大学院経済学研究科教授 星野崇宏  
担当業務 データ解析・全体指導

研究機関 東京大学高齢社会総合研究機構

研究責任者 東京大学高齢社会総合研究機構特任講師 村山洋史  
担当業務 解析手法助言

### 【研究期間】

承認後～2020年03月31日まで

### 【研究対象者】

1987年11月01日～2006年10月01日に登録された研究参加者

### 【研究の意義と目的】

高齢人口の増加に伴い、医療や介護にかかる社会的コストの増加が続くことが予想されている一方、医療や介護にかかるインフラ構築は、単に寿命の延伸のみならず、ADLの維持、主観的健康度の向上、社会参加の推進といった、人生の質を高めることを目標にするべきとの考え方が主流となっているが、個人におけるADL/IADLの経年的推移およびそれらを説明する因子については知見が乏しい。

本研究では、東京都健康長寿医療センター研究所から寄託され、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターのホームページ上で利用申請することのできるパネルデータ「老研－ミシガン大－東大 全国高齢者パネル調査」を用いて統計解析を行い、高齢者のADL/IADLの推移およびそれらの説明となる

因子について明らかにする。これらの結果から、健康寿命の延伸に必要な個人および社会における方策を提示することを本研究の目的とする。

#### 【研究の方法】

匿名化の上で提供されるパネルデータ「老研－ミシガン大－東大 全国高齢者パネル調査」に group-based trajectory analysis 法（Nagin, 1999）を適用し、高齢者の ADL/IADL の推移に基づくクラスタを検出し、各クラスタの全体に占める割合、および各クラスタの特徴（身体的、精神的、社会的等）を記述する。具体的には、ADL/IADL を目的変数とし、年齢、子供の数、教育年数、喫煙、飲酒、既往疾患、社会活動などを説明変数とした回帰分析を行う。これらの結果から、健康寿命の延伸に必要な個人および社会における方策を提示することを目指す。

#### 【個人情報の保護】

本研究では、匿名化の上で提供されているパネルデータ「老研－ミシガン大－東大 全国高齢者パネル調査」を使用します。個人の特定が困難な匿名化データではありますが、当講座で解析されるデータは、外部に漏洩することのないよう慎重に取り扱います。データは、東京大学社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ研究センターのホームページ上からダウンロードされ、解析担当者のパスワードロックをかけた解析用パソコンで厳重に保管されます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会発表や論文の形として公開されます。使用したデータは厳重な管理のもと、解析終了後に消去されます。

2018 年 9 月

#### 【問い合わせ先】

東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座特任助教 一原直昭

住所:東京都文京区本郷 7-3-1

電話:03-5800-9121 FAX:03-5800-9121

E メール:hqa-adm@umin.ac.jp